

都市システム科学域 授業概要

科目名		授業番号	棟・室番号	開講時期	
都市空間計画特論		S135	9-229	後期	
単位数	2	担当教員	市古 太郎	曜日・時限	火・3
備考					
①授業方針・テーマ	授業は大きく3部から構成される。①災害復興を通して見た日本の都市空間形成の特徴、②東京を中心とした防災まちづくりのスタディと提案演習、③「被災地とどう向き合うか」という視点からの東日本大震災の復興スタディである。「都市空間計画演習」を合わせて履修することを原則とする。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	「災害復興」は米国では都市計画家の必須スキルとなりつつあります。東日本大震災からの復興まちづくりの主体的な実態考察を通して、復興計画と復興事業のあり方について知識を深め、また専門家としての貢献のあり方について行動提案できることを目標とします。				
③授業計画・内容	<p>授業初回で災害現象に関する基礎的事項を講義した上で、東京の都市防災・防災まちづくりと東日本大震災からの復興まちづくりを題材として、防災と復興について演習を交えながら学習していく。</p> <p>(1) 災害現象に関する基礎的事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害マネジメントモデル、サステナビリティと防災、バルネラビリティとレジリエンシー <p>(2) 日本の自然災害史と都市防災</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関東大震災、戦災復興・高度成長と都市防災、阪神淡路大震災、東日本大震災 <p>(3) 防災まちづくりのスタディと提案演習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京の密集市街地で取り組まれている防災まちづくり現場のフィールドワークとプラン提案演習 <p>(4) 東日本大震災からの復興まちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・被害からの復旧・復興状況、復興計画と復興事業の検証、復興まちづくりに関するディスカッション 				
④テキスト・参考書等	教科書としては指定せず適宜プリントを配布する。参考書として、日本建築学会編『安全安心のまちづくり』（2005年）と『復興まちづくり』（2009年）、および石田頼房『日本近現代都市計画の展開—1868-2003』				
⑤成績評価方法	出席と課題レポートによって総合的に評価します。				
⑥特記事項	在室時は対応できます。事前にメールでアポを取ってください。				

No. 都シス1

科目名		授業番号	棟・室番号	開講時期	
都市空間計画演習		S136	9-229	後期	
単位数	2	担当教員	市古 太郎	曜日・時限	火・4
備考					
①授業方針・テーマ	「都市空間計画特論」と関連づけながら、防災まちづくりをテーマとした東京のプランニング演習、被災地調査の作法および専門家としての復興計画と復興提案のあり方について、演習形式で修得をめざす。「都市空間計画特論」と合わせて履修することを原則とする。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	東日本大震災からの復興まちづくりの主体的な実態考察を通して、復興計画と復興事業のあり方について知識を深め、また専門家としての貢献のあり方について行動提案できることを目標とします				
③授業計画・内容	<p>主に以下の内容を中心に、演習形式で授業を進行します。</p> <p>(1) 都市化と災害脆弱性（阪神淡路、トルコ、台湾、インドネシアにおける発災までの空間形成と震災復興）のディスカッション</p> <p>(2) 防災まちづくりのスタディと提案演習</p> <p>(3) 東日本大震災からの復興まちづくりと計画支援方法論に関するゼミナール</p> <p>(4) 英米を中心とした防災復興戦略（災害マネジメントモデル、サステナビリティ防災、バルネラビリティモデル）</p>				
④テキスト・参考書等	教科書としては指定せず適宜プリントを配布する。参考書として、日本建築学会編『安全安心のまちづくり』（2005年）と『復興まちづくり』（2009年）、および石田頼房『日本近現代都市計画の展開—1868-2003』				
⑤成績評価方法	出席と課題レポートによって総合的に評価します。				
⑥特記事項	在室時は対応できます。事前にメールでアポを取ってください。				

No. 都シス2

科目名		授業番号	棟・室番号	開講時期	
都市空間解析特論		S228	9-231	前期	
単位数	2	担当教員	玉川 英則	曜日・時限	金・3
備考					
①授業方針・テーマ	建築の集合体としての都市空間の形態的側面に焦点を当て、その分析論と計画論のいくつかの断面の把握を行う。主として古典的文献・研究を“核”に講義をすすめる。なお受講希望者は、必ず、最初の講義に出席すること。また、「都市空間解析演習」を合わせて履修することを原則とする。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	都市空間解析の方法論に関する基本的な知識と応用能力を取得することを目標とする。建築の集合体としての都市空間の諸特性を客観的に把握し、意匠設計実務、特にインターンシップに必要な都市空間に関する知識や考え方を習得する。				
③授業計画・内容	授業計画概要（具体的日程については、最初の講義時に相談の上決定する）。 (1) ガイダンス、講義：序論 1～2時限分 (2) 都市解析基礎論1 3～4時限分 (3) 都市解析基礎論2 2～3時限分 (4) 土地利用分析論 2～3時限分 (5) 都市景観論 2～3時限分 (6) 都市生活と都市空間論 2～3時限分				
④テキスト・参考書等	テキストは特に定めず、テーマごとに資料を配付し、参考書等を紹介する。				
⑤成績評価方法	出席点+レポート等の点数で評価する。				
⑥特記事項	受講希望者は最初の講義に必ず出席してください。				

No. 都シ3

科目名		授業番号	棟・室番号	開講時期	
都市空間解析演習		S230	9-231	前期	
単位数	2	担当教員	玉川 英則	曜日・時限	金・4
備考					
①授業方針・テーマ	「都市空間解析特論」の内容に関連づけながら、分野横断的なテーマを設定し、近年の研究を中心とした講読（ゼミナール）を行う。なお、「都市空間解析特論」を合わせて履修することを原則とする。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	都市空間解析の方法論に関する基本的な知識と応用能力を取得することを目標とする。建築の集合体としての都市空間の諸特性を客観的に把握し、意匠設計実務、特にインターンシップに必要な都市空間に関する知識や考え方を習得する。				
③授業計画・内容	演習のテーマや具体的日程については、最初の講義時に相談の上決定するが、「都市空間解析特論」の講義で扱った、 都市解析基礎論 土地利用分析論 都市景観論 都市生活と都市空間論 に関わる横断的なテーマを設定し、分担発表やディスカッションを進める。				
④テキスト・参考書等	設定したテーマに沿って講読文献を紹介する。				
⑤成績評価方法	出席点+レポート等の点数で評価する。				
⑥特記事項	受講希望者は最初の講義に必ず出席してください。				

No. 都シ4

科 目 名		授業番号	棟・室番号	開 講 時 期	
都市制度論特論		S023	9-229	前期	
単位数	2	担当教員	長野 基	曜日・時限	水・3
備 考					
①授業方針・テーマ	都市ガバナンスのための政策設計と運用				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	都市ガバナンスを構成する諸側面を分析する様々な理論的枠組みを理解すると共に、実際の政策設計・運用に関して有意な政策提言ができる知見を培うことを目的とします。本年度は政策科学における基本的なテキスト(和文・英文)の学習を通じて「政策ツール」への理解を深め、それを基にして「政策デザイン」の問題を考えていきます。そして、個別具体の政策領域において政策研究提言を作成するために必要な基礎的知見を修得することを目指します。				
③授業計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入：公共財と公権力 2. 公的制度のデザイン 3. 公的ルール of 執行 4. 公共サービスの供給形態 5. 公共サービスにおける消費者選択 6. 中間のまとめ 7. 政策デザイン概論 8. 政策形成と政策デザイン 9. 政策ツールの選択 10. 政策実施組織のデザイン 11. 規制の実施手段のデザイン 12. 財政的誘因・情動的誘因のデザイン 13. 都市ガバナンスと政策デザイン 14. 課題演習 15. 全体のまとめ 				
④テキスト・参考書等	クリストファー フッド (2000) 『行政活動の理論』(岩波書店) Michael Howlett (2011) ,Designing Public Policies: Principles and Instruments, Routledge				
⑤成績評価方法	課題レポート等によって総合的に評価します。				
⑥特記事項	受講希望者は最初の講義に必ず出席してください。				

No. 都シス5

科目名		授業番号	棟・室番号	開講時期	
都市制度論演習		S024	9-229	後期	
単位数	2	担当教員	長野 基	曜日・時限	水・3
備考					
①授業方針・テーマ	都市ガバナンスの「制度論」的分析				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	都市自治・都市行政の諸現象を分析する様々な理論的枠組みを理解すると共に、実際の事例分析で応用できる知見を培うことを目的とします。都市を巡る「制度」(institution)は法令・条例に記載されている文言のみが規定するものではなく、目に見えない個人・組織(アクター)間の“了解事項”や“力学”からも構成されます。そうした「制度」と都市ガバナンスの関係を考えるために、本演習では主に「新しい制度論」の視点で考察を進めます。				
③授業計画・内容	1. イントロダクション 2. 制度を見る視点：3つの「i」 ①利益 (interest) ②制度 (institution) ③アイデア (idea) 3. 集合的行為の視点 4. 新制度派経済学の視点 5. 理論的視点の応用(歴史的制度論, 社会学的制度論, 合理的選択制度論, 言説的新制度論ほか) 6. 調査計画の発表と討議 7. 演習課題調査報告・討議				
④テキスト・参考書等	秋吉貴雄・伊藤修一郎・北山俊哉(2010)『公共政策学の基礎』(有斐閣) 河野勝(2002)『制度』(東京大学出版会) ダグラス・C・ノース(1990)『制度・制度変化・経済効果』(晃平書房) マンサー・オルソン(1996)『集合行為論』(ミネルヴァ書房) 曾我謙悟(2013)『行政学』(有斐閣) Mahoney& Thelen(2009), Explaining Institutional Change: Ambiguity, Agency, and Power, Cambridge University Press その他、適宜、論文資料等を配布します。				
⑤成績評価方法	各回における参加・報告内容および期末課題レポートによって総合的に評価します。				
⑥特記事項	受講希望者は最初の講義に必ず出席してください。				

No. 都シス6

科目名		授業番号	棟・室番号	開講時期	
都市環境経済論特論		S008	11-306	前期	
単位数	2	担当教員	伊藤 史子	曜日・時限	月・3
備考					
①授業方針・テーマ	都市・地域・環境の問題に対するマネジメントの考え方、建築や都市におけるプロジェクト便益評価の基礎。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	都市・地域・環境の問題に対するマネジメントの考え方を習得することを目的とし、各種プロジェクトの実施判断や代替案比較をするための便益評価の基礎を講義形式で習得することをめざす。 意匠設計実務、特にインターンシップに必要な都市計画の知識や考え方を習得する。				
③授業計画・内容	<p>授業計画概要</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 導入：プロジェクト評価の意義と歴史 2. 計画プロセスと評価の位置づけ 3. 計画・評価のフレーム設定 4. 計画目標・評価項目 5. 施設配置の評価と最適化 6. 費用便益分析のアプローチ 7. ヘドニック価格法（理論と事例、各1時限） 8. トラベルコスト法（同） 9. 仮想市場法（同） 10. コンジョイント法（同） 11. まとめ 				
④テキスト・参考書等	教科書は指定せず適宜講義プリントを配布する。参考文献は講義中のトピックごとに紹介する。ミクロ経済学の基礎は受講生の理解レベルに応じて適宜補う予定である。				
⑤成績評価方法	成績評価は、提出課題等の評価を総合して判定する。				
⑥特記事項	<p>在室時はほぼ対応できますのでメールでアポを取ってください。</p> <p>都市環境経済論演習とあわせて履修することを原則とする。</p> <p>授業のうち何回かについて非常勤講師をお招きする可能性があります。決まりしだい掲示等によりお知らせします。</p>				

No. 都シス7

科目名		授業番号	棟・室番号	開講時期	
都市環境経済論演習		S009	11-306	前期	
単位数	2	担当教員	伊藤 史子	曜日・時限	月・4
備考					
①授業方針・テーマ	都市・地域・環境の問題に対する経済的な考え方、環境の価値や公共プロジェクトの便益の経済的評価の基礎。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	都市・地域・環境の問題に対して経済的に考えることを目的とし、環境の価値や公共プロジェクトの便益の経済的評価の基礎を演習形式で習得することをめざす。				
③授業計画・内容	都市・地域・環境の問題に対して経済的に考えることを目的とし、環境の価値や公共プロジェクトの便益の経済的評価の基礎を演習形式で習得することをめざす。費用便益分析の各種評価手法（ヘドニック価格法、仮想市場法、トラベルコスト法、コンジョイント分析法など）の適用例について基礎を学んだ後、各種手法を用いた実証分析例を既往文献から抽出し、それらを輪講形式で学ぶことにより最近の研究動向を理解する。ミクロ経済学の基礎は受講生の理解レベルに応じて適宜補う予定である。				
④テキスト・参考書等	教科書は指定せず適宜講義プリントを配布する。参考文献は講義中のトピックごとに紹介する。				
⑤成績評価方法	成績評価は、発表課題、提出課題等の評価を総合して判定する。				
⑥特記事項	在室時はほぼ対応できますのでメールでアポを取ってください。 都市環境経済論特論とあわせて履修することを原則とする。 授業のうち何回かについて非常勤講師をお招きする可能性があります。決まりたい掲示等によりお知らせします。				

No. 都シス8

科目名		授業番号	棟・室番号	開講時期	
都市地域研究特論		S315	12-205	前期	
単位数	2	担当教員	饗庭 伸	曜日・時限	月・1
備考					
①授業方針・テーマ	都市計画法をめぐる最新の議論と都市計画の批判的検証をテーマとする。具体的には都市計画学会の論文の輪読を通じて問題意識を形成した上で、都市計画の課題が表出している現場を調査し、課題に対する二つの立場に分かれてディベートを行なう。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	都市計画に関するより深い専門知識と問題意識、ディベートの能力を獲得する。				
③授業計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1) 都市計画法の概要 2) 都市計画法の論点（論文の輪読） 3) 都市計画法の論点（論文の輪読） 4) 現地調査の準備 5) 6) 現地調査 7) 現地調査のまとめとディベート 				
④テキスト・参考書等					
⑤成績評価方法	毎回の出席状況と現地調査の成果をまとめたレポートをもって成績を評価する				
⑥特記事項	この演習は7回の「都市地域研究演習」が終了したのちに開講され、月曜日の1限と2限の連続で行なわれる。また第5回・6回の講義は正規の講義時間外に学外で行なわれる。なお、履修者は必ずしも「都市地域研究演習」を履修してなくともよい。				

No. 都シス9

科目名		授業番号	棟・室番号	開講時期	
都市地域研究演習		S316	12-205	前期	
単位数	2	担当教員	饗庭 伸	曜日・時限	月・2
備考					
①授業方針・テーマ	都市・地域の参加型プランニングに活用出来る空間デザインに関する参加型ワークショップ手法を習得する。具体的には、参加型ワークショップ手法の理論を修得した上で、オリジナルのワークショップ手法を開発し、被験者を対象に実施することを通じて実践的に知識を習得する。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	空間デザインに関する参加型ワークショップ手法を習得する。				
③授業計画・内容	1) ガイダンス 2) ワークショップの体験+ワークショップの理論 3) ゲームとワークショップの体験 4) ワークショップの設計 5) ワークショップの設計 6) ワークショップの設計と試用 7) ワークショップの実践				
④テキスト・参考書等	開講時に指示する。				
⑤成績評価方法	出席状況と設計したワークショップの反省点についてのレポートをもって成績を評価する。				
⑥特記事項	この演習は月曜日の1限と2限の連続で行なわれ、7回をもって終了し、その後に「都市地域研究特論」が開講される。また第7回の演習は対象となる被験者の時間にあわせて正規の講義時間外に行なわれる。				

No. 都シ10

科目名		授業番号	棟・室番号	開講時期	
都市社会論特論		S056	9-229	前期	
単位数	2	担当教員	山本 薫子	曜日・時限	水・1
備考					
①授業方針・テーマ	都市空間において人々はどうの意図に基づいて集団形成を図っているのだろうか。そして、その背景にはどのような秩序、メカニズムが働いているのか。授業では、このテーマに基づき、1) 自然発生段階、2) 秩序・制度（システム）形成段階、3) 政策に基づく集団形成、などの観点から考察する。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	都市においてみられる諸事象を、都市社会学、地域社会学の理論枠組みを用いて分析するための知識、技法を習得する。				
③授業計画・内容	授業では毎回、担当者を決めて関連文献を読む。担当者はレジュメを作成し、文献の内容を要約して発表すると同時に、「都市の社会集団」という観点から文献内容をどのように考えるか、報告を行う。担当者以外の履修者も全員、文献を読んでくれることが前提。その上で、「都市の社会集団」に関する議論を行う。第1回はガイダンス。第2回以降は毎回、文献購読とディスカッションにより授業を進める。				
④テキスト・参考書等	稲葉佳子, 2008, 『オオクボ 都市のカー多文化空間のダイナミズム』学芸出版社。 三宅理一, 2010, 『秋葉原は今』芸術新聞社。 浅野智彦, 2011, 『趣味線からはじまる社会参加』岩波書店。 鱈坂学, 2009, 『都市移住者の社会学的研究』法律文化社。 S・ズーキン, 2013, 『都市はなぜ魂を失ったか—ジェイコブズ後のニューヨーク論』講談社。 町村敬志, 1999, 「グローバル化と都市—なぜイラン人は『たまり場』を作ったのか」奥田道大編『講座社会学4 都市』東京大学出版会。				
⑤成績評価方法	・出席 ・毎回の授業への参加、コメント ・期末レポート（2,000字程度）				
⑥特記事項	研究室：9号館1階154室 E-mail: kahoruko@tmu.ac.jp メールでアポイントメントをとってください。 都市社会論演習と合わせて履修することを原則とする。				

No. 都シ11

科目名		授業番号	棟・室番号	開講時期	
都市社会論演習		S057	9-229	前期	
単位数	2	担当教員	山本 薫子	曜日・時限	水・2
備考					
①授業方針・テーマ	都市空間において人々はどのような意図に基づいて集団形成を図っているのだろうか。そして、その背景にはどのような秩序、メカニズムが働いているのか。授業では、このテーマに基づき、1) 自然発生段階、2) 秩序・制度（システム）形成段階、3) 政策に基づく集団形成、などの観点から考察する。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	都市社会学の理論、学説展開に関する知識を実際の都市の事例分析に応用することができるようになる。				
③授業計画・内容	「都市の社会集団形成」をテーマとしたまち歩き（フィールドワーク）のための事前準備を行い、論点を議論した上で、実際のまちあるきを行う（2回を予定）。各回のまち歩きのと、履修者各自による報告を行い、事前に考察した論点と合わせて議論を進める。それらを踏まえて、現代の都市空間における社会集団形成の特徴について考察を行う。				
④テキスト・参考書等	都市社会論特論に同じ。				
⑤成績評価方法	都市社会論特論に同じ。				
⑥特記事項	都市社会論特論に同じ。 原則的に、都市社会論特論と同時に履修することが望ましい。				

No. 都シス12

科目名		授業番号	棟・室番号	開講時期	
都市交通システム特論		S620	12-207	前期	
単位数	2	担当教員	小根山 裕之	曜日・時限	水・3
備考					
①授業方針・テーマ	本授業では、社会基盤システムの解析・計画・評価に用いられる数理的手法の基礎理論とその応用技術、および主に交通システム工学に関する最新の社会・技術動向を勉強する。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	数理的手法の理論的な理解や最新の技術について知識を得、都市基盤環境分野における適用方法や適用上の留意点などを学び、実際の課題へ適用できる能力を獲得する。				
③授業計画・内容	(1) ガイダンス, (2) 数理計画法の高度化, (3) 確率過程と待ち行列理論の基礎, (4) 待ち行列理論の応用事例, (5) 交通信号制御最適化問題, (6) 交通信号制御遅れと待ち行列理論, (7) 交通流の科学：累積交通量図と渋滞の科学, (8) 交通需要予測の基礎, (9) 分布交通量の推定と交通機関選択, (10) 人・モノの流動計測と管理技術, (11) 交通による環境負荷のモデリング, (12) 交通シミュレーションを利用した適用技術, (13)(14)(15) 上記テーマに関する課題研究・講評				
④テキスト・参考書等	特に定めない。随時資料を提供する。				
⑤成績評価方法	発表・質疑応答・討議の内容を総合的に判断し、評価する。				
⑥特記事項	本講義は「社会現象解析学」との同時開講である。両講義を同時に履修登録することはできない。 小根山のオフィスアワーは http://www.comp.tmu.ac.jp/honest/officehour.html を参照のこと。				

No. 都シス13

科目名		授業番号	棟・室番号	開講時期	
都市交通システム演習		S621	12-207	後期	
単位数	2	担当教員	小根山 裕之	曜日・時限	水・3
備考					
①授業方針・テーマ	交通工学の中で、特に交通運用に活用されている理論の基礎と応用について学ぶ。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	交通制御、交通容量、道路幾何構造設計なども含む交通運用工学に関する古典から最新の研究動向までの知見を得る。				
③授業計画・内容	<p>以下のような内容について、古典から最新の研究論文等についての輪読を行う。</p> <p>(1)ガイダンス (2)～(5)交通流調査に関する研究論文輪読：交通量・交通流率、地点速度、旅行速度、状態変化など (6)～(10)道路交通制御技術に関する研究論文輪読：高速道路渋滞メカニズム、高速道路渋滞対策、交差点の制御、交通信号制御、街路ネットワーク制御など (11)～(14)ITS・最新技術等に関する研究論文輪読：現状技術と将来像、地図と位置特定技術、検知・検出技術、安全・環境とITSなど (15)講評、討議、到達度の評価</p>				
④テキスト・参考書等	特に定めない。随時資料を用意する。				
⑤成績評価方法	発表・質疑応答・討議の内容を総合的に判断し、評価する。				
⑥特記事項	本講義は、「交通運用工学特論」との同時開講である。両講義を同時に履修登録することはできない。小根山のオフィスパワーは http://www.comp.tmu.ac.jp/honest/officehour.html を参照のこと。				

No. 都シ14

科目名		授業番号	棟・室番号	開講時期	
都市経済論特論		S121	9-229	後期	
単位数	2	担当教員	伊藤 史子	曜日・時限	火・2
備考					
①授業方針・テーマ	都市・地域・環境の問題に対する経済的な考える方、環境の価値や公共プロジェクトの便益の経済的評価を行うための都市経済学の基礎。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	都市・地域・環境の問題に対して経済的に考えることを目的とする。環境の価値や公共プロジェクトの便益の経済的評価を行うための都市経済学の基礎を習得する。				
③授業計画・内容	<p>都市・地域・環境の価値や公共プロジェクトの便益の経済的評価を行うための都市経済学の基礎を習得する。そののちに環境価値や便益評価の演習を行う（演習内容は学生の理解の状況に応じて決める）。</p> <p>1：導入 2-3都市・都市化・都市圏 4：都市集積 5-6：都市規模・都市システム 7：土地利用 8-9：住宅立地・業務立地 10-11：工業立地・商業立地 12-13：住環境・住宅市場 14-15：住環境の価値・プロジェクト便益</p>				
④テキスト・参考書等	授業開始時に指示する。				
⑤成績評価方法	成績評価は、発表課題、提出課題等の評価を総合して判定する。				
⑥特記事項	※授業のうち数回について非常勤講師をお招きする可能性があります。決まりしだい掲示等によりお知らせします。				

No. 都シ15

科目名		授業番号	棟・室番号	開講時期	
都市空間情報論演習		S251	9-229,158	前期	
単位数	2	担当教員	玉川 英則	曜日・時限	集中
備考					
①授業方針・テーマ	パソコン用のGIS（地理情報システム）の入門と基本操作の演習を行う。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	各自の研究に必要な図の作成や分析が、自らマニュアルを参照しながらできるレベルまで到達することを目標とする。				
③授業計画・内容	授業計画概要（具体的日程を含んだものについては、最初の講義時に配布する） 第1回 講義：GIS概説 第2回 演習① 機能の概要、地図情報の編集、印刷 第3回 演習② 属性情報（データ）の編集、地図情報とのリンク、主題図作成、表計算ソフトとのリレーション等 第4回 演習③ 空間解析、地図データ入力、データ互換、カスタマイズ等 演習で利用した以外のソフトの紹介等 レポート課題出題 以下、随時各自で演習をすすめる。				
④テキスト・参考書等	毎回資料を配付。また、ソフトウェアのマニュアルや解説書を演習の中で紹介する。				
⑤成績評価方法	出席点+レポート等の点数で評価する。				
⑥特記事項	受講希望者は最初の講義に必ず出席してください。				

No. 都シ16

科目名		授業番号	棟・室番号	開講時期	
都市生活環境論演習		S252	9-229	前期	
単位数	2	担当教員	市古 太郎	曜日・時限	集中
備考					
①授業方針・テーマ	フィールドワーク調査にとって不可欠な「場所」や「空間」の調査分析方法論を演習を通して学ぶ				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	海外を含む災害調査現場で用いられている現地調査と分析手法をベースに、空間に関連づけて現地データを構造化する方法論を修得します。また大学院生それぞれの研究への適用についてディスカッションします。				
③授業計画・内容	主に以下の内容と演習を予定しています。 詳細は第1回目のガイダンス時に受講生と意見交換した上で確定する予定です。 (1) 空間データモデルとGIS上の実装演習 (2) GPSロガーによるフィールド地点データ取得とデータベース化手法 (3) 古地図、大型紙地図の空間データベース化手法 (4) 敷地模型の作成手法とワークショップ実例 (5) 受講生各自の研究テーマに沿った演習とディスカッション				
④テキスト・参考書等	適宜配布します。				
⑤成績評価方法	出席と演習レポートによって評価する。				
⑥特記事項	市古：研究室 9号館5階553室 E-mail: ichiko-taro@tmu.ac.jp メールでアポイントメントをとってください。				

No. 都シ17

科目名		授業番号	棟・室番号	開講時期	
都市政策論演習		S255	9-229	後期	
単位数	2	担当教員	饗庭 伸、長野 基	曜日・時限	集中
備考					
①授業方針・テーマ	具体的な都市開発事業を対象としたケーススタディを通じて、都市開発の手法とその評価を学ぶ。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	都市開発手法についての知識を獲得する。				
③授業計画・内容	1) ガイダンス レクチャー 都市開発事業の概要 2) 都市開発事業の基礎知識 3) 対象プロジェクトの理解 4) ケーススタディの視点の共有 5) 6) 対象プロジェクトの現地見学 開発担当者へのインタビュー 7) レポート発表				
④テキスト・参考書等	都市・建築不動産企画開発マニュアル 2014-15 エクスナレッジムック				
⑤成績評価方法	各回の出席状況と最終レポートより成績を評価する。				
⑥特記事項	各回の演習は2時限を通して行なわれる。開講曜日は土曜日であり、日時については別途掲示する。また3回目、5回目、6回目は対象となるプロジェクトの現地で開催される。				

No. 都シス18

科目名		授業番号	棟・室番号	開講時期	
都市社会調査法特論		S093	9-229	後期	
単位数	2	担当教員	山本 薫子	曜日・時限	月・2
備考					
①授業方針・テーマ	社会調査法の基礎な考え方、技法について学び、都市社会における諸課題の分析に適した調査のあり方を検討する。 授業では、履修者それぞれが自分の決めた調査テーマに従って調査計画を作成し、標本調査のための調査票を作成し、さらにインタビュー調査を実施する。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	前半は統計調査（特に標本調査）について、後半は質的調査（特に事例調査）について学び、それぞれの調査法の考え方、特徴などを理解する。同時に、それぞれの調査法におけるデータ収集および分析のための技法を修得する。				
③授業計画・内容	<p>標本調査については、企画設計、サンプリング、調査票作成等に関する知識、技法の習得を目指す。また、事例調査に関しては、フィールドワーク、参与観察法に関する考え方、データ取得および分析の方法について学ぶ。</p> <p>また、これまでに都市において実施された社会調査の手法、結果等を検討することによって、都市での社会調査の特質や課題、社会調査をめぐる倫理性の問題についても議論を深める。</p> <p>課題として、1)統計調査の設計と調査票づくり、2)インタビュー調査の実施とデータ分析、を実施する。</p> <p>第1回 ガイダンス、スケジュール説明、社会調査の考え方と種類 ★初回授業までに「社会調査で調べてみたいこと」を考えてくること</p> <p>第2回 統計調査の考え方（1） / 調査計画をたてる（1）</p> <p>第3回 統計調査の考え方（2） / 調査計画をたてる（2）</p> <p>第4回 調査計画の発表会</p> <p>第5回 調査票の作成方法（1）</p> <p>第6回 調査票の作成方法（2） / 調査項目を考える</p> <p>第7回 調査票（質問文、選択肢）を考える</p> <p>第8回 調査票のプレテスト実施</p> <p>第9回 統計調査のデータ分析</p> <p>第10回 質的調査の考え方（1） / インタビュー調査の計画を考える</p> <p>第11回 質的調査の考え方（2） / インタビュー調査の経過報告（1）</p> <p>第12回 質的調査のデータ記録 / インタビュー調査の経過報告（2）</p> <p>第13回 質的調査のデータ分析（1） / インタビュー調査の経過報告（3）</p> <p>第14回 質的調査のデータ分析（2）</p> <p>第15回 インタビュー調査結果の発表会</p>				
④テキスト・参考書等	<p>テキストは用いない。</p> <p>参考書： 篠原清夫ほか編『社会調査の基礎 社会調査士A・B・C・D科目対応』（弘文堂） 谷富夫ほか『よくわかる質的社会調査 技法編』（ミネルヴァ書房） その他の参考書は授業内で紹介する。</p>				
⑤成績評価方法	出席、提出物（調査票完成版）、授業内での発表によって総合的に評価する。				
⑥特記事項	<p>研究室：9号館1階154室 E-mail: kahoruko@tmu.ac.jp</p> <p>メールでアポイントメントをとってください。</p>				

科目名		授業番号	棟・室番号	開講時期	
都市システム科学概論		S253	9-229	前期	
単位数	2	担当教員	市古 太郎、全教員	曜日・時限	集中
備考					
①授業方針・テーマ	都市科学				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	本講義は、受講者に「都市科学」の問題意識と研究の領域について理解してもらうことを主たる目的とし、専任教員全員がそれぞれの研究と都市研究との関わりを主題として実施するものである。				
③授業計画・内容	講義は3日間に分けて概ね以下のような予定で進行する。 (1) 都市環境と経済評価(伊藤) (2) 都市とまちづくり(饗庭) (3) 都市空間と解析(玉川) (4) 都市と地域コミュニティ(山本) (5) 都市と交通システム(小根山) (6) 都市ガバナンスと政策(長野) (7) 都市の防災と復興(市古)				
④テキスト・参考書等					
⑤成績評価方法	課題レポート等によって総合的に評価する。				
⑥特記事項					

No. 都ス20

科目名		授業番号	棟・室番号	開講時期	
都市システム科学セミナーA		S476		前期	
単位数	2	担当教員	市古 太郎、全教員	曜日・時限	集中
備考					
①授業方針・テーマ	都市システム科学の博士前期課程における研究に関する指導を行う。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	本セミナーは博士前期課程1年次の学生を対象に、各自の修士論文に向けての研究について、都市システム科学の観点から研究指導を行うことを目的とする。				
③授業計画・内容	前期は、分野毎、指導教員毎に定期的にセミナーを開催して、研究テーマの選択、研究計画の作成、研究方法および調査設計などの検討、先行研究の調査や関連する専門的・理論的知識の習得、研究の経過発表などを主として進める。 後期は、これらに加えて、全教員・全学生の参加による合同セミナーを開催して、修士論文の構想発表と中間発表を行い、学際的な観点から研究指導を行う。				
④テキスト・参考書等					
⑤成績評価方法	セミナーでの発表と出欠等によって総合的に評価する。				
⑥特記事項	個々の研究室におけるセミナー等、指導教員を中心とした不断の指導を受け研鑽を積むことを経て合同セミナーの発表に臨むことが必須である。したがって、それが学生側の問題により十分行われていないと指導教員が判断する場合は、発表を行うことを認めない場合がある。また、発表担当ではないセミナーへの出欠も評価の対象となる。				

No. 都ス21

科目名		授業番号	棟・室番号	開講時期	
都市システム科学セミナーB		S477		後期	
単位数	2	担当教員	市古 太郎、全教員	曜日・時限	集中
備考					
①授業方針・テーマ	都市システム科学の博士前期課程における研究に関する指導を行う。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	本セミナーは博士前期課程1年次の学生を対象に、各自の修士論文に向けての研究について、都市システム科学の観点から研究指導を行うことを目的とする。				
③授業計画・内容	前期は、分野毎、指導教員毎に定期的にセミナーを開催して、研究テーマの選択、研究計画の作成、研究方法および調査設計などの検討、先行研究の調査や関連する専門的・理論的知識の習得、研究の経過発表などを主として進める。 後期は、これらに加えて、全教員・全学生の参加による合同セミナーを開催して、修士論文の構想発表と中間発表を行い、学際的な観点から研究指導を行う。				
④テキスト・参考書等					
⑤成績評価方法	セミナーでの発表と出欠等によって総合的に評価する。				
⑥特記事項	個々の研究室におけるセミナー等、指導教員を中心とした不断の指導を受け研鑽を積むことを経て合同セミナーの発表に臨むことが必須である。したがって、それが学生側の問題により十分行われていないと指導教員が判断する場合は、発表を行うことを認めない場合がある。また、発表担当ではないセミナーへの出欠も評価の対象となる。				

No. 都シス22

科目名		授業番号	棟・室番号	開講時期	
都市システム科学セミナーC		S478		前期	
単位数	2	担当教員	市古 太郎、全教員	曜日・時限	集中
備考					
①授業方針・テーマ	都市システム科学の博士前期課程における研究に関する指導を行う。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	本セミナーは博士前期課程2年次の学生を対象に、各自の修士論文に向けての研究について、都市システム科学の観点から、多角的に検討・指導することによって、その推進を図ることを目的とする。				
③授業計画・内容	分野毎、指導教員毎にセミナーを運営して、研究経過の発表や関連研究の学習を行うほか、全教員・全学生の参加による合同セミナーを開催し、各自の研究内容を都市システム科学の観点から検討するとともに、広い視野をもって研究を深めていく場とする。論文提出後には修士論文発表会を開催する。				
④テキスト・参考書等					
⑤成績評価方法	セミナーでの発表と出欠等によって総合的に評価する。				
⑥特記事項	個々の研究室におけるセミナー等、指導教員を中心とした不断の指導を受け研鑽を積むことを経て合同セミナーの発表に臨むことが必須である。したがって、それが学生側の問題により十分行われていないと指導教員が判断する場合は、発表を行うことを認めない場合がある。また、発表担当ではないセミナーへの出欠も評価の対象となる。				

No. 都シス23

科目名		授業番号	棟・室番号	開講時期	
都市システム科学セミナーD		S479		後期	
単位数	2	担当教員	市古 太郎、全教員	曜日・時限	集中
備考					
①授業方針・テーマ	都市システム科学の博士前期課程における研究に関する指導を行う。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	本セミナーは博士前期課程2年次の学生を対象に、各自の修士論文に向けての研究について、都市システム科学の観点から、多角的に検討・指導することによって、その推進を図ることを目的とする。				
③授業計画・内容	分野毎、指導教員毎にセミナーを運営して、研究経過の発表や関連研究の学習を行うほか、全教員・全学生の参加による合同セミナーを開催し、各自の研究内容を都市システム科学の観点から検討するとともに、広い視野をもって研究を深めていく場とする。論文提出後には修士論文発表会を開催する。				
④テキスト・参考書等					
⑤成績評価方法	セミナーでの発表と出欠等によって総合的に評価する。				
⑥特記事項	個々の研究室におけるセミナー等、指導教員を中心とした不断の指導を受け研鑽を積むことを経て合同セミナーの発表に臨むことが必須である。したがって、それが学生側の問題により十分行われていないと指導教員が判断する場合は、発表を行うことを認めない場合がある。また、発表担当ではないセミナーへの出欠も評価の対象となる。				

No. 都シス24

科目名		授業番号	棟・室番号	開講時期	
インターンシップ		S270		集中（期間未定）	
単位数	1/2	担当教員	市古 太郎	曜日・時限	
備考					
①授業方針・テーマ	都市をシステムとして理解するために、都市に関する現実社会での多様な実務や活動を体験しつつ研修する。この研修を通して都市に対する総合的な理解を深める事を目的とする。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	実社会での都市に関する実際の職務を体験し、様々な知識を得る。				
③授業計画・内容	夏休み等を利用して、5月～2月の間の期間に5日間以上の企業や東京都庁、区市の基礎自治体、コンサルタントや都市開発関連企業、都市に関わるNPO等で実務体験をする。 1. 実習先の企業・役所等は各自が調べて希望先を決定し、内諾を得る。 2. 履修にあたっては、インターン開始の1ヶ月以上前に指導教員および教務委員に相談をすること。 3. 実習先の内諾を得たら、教務委員に連絡し、必要書類の電子データを受け取る。 4. 「実習概要」を記入し、教務委員に送付する。 5. 教務委員が「協定書」を作成し、依頼書等とあわせて実習先に送付し、協定が結ばれる。 6. 実習が終了したら、規定の報告書と日誌を教務委員に文書で提出する。				
④テキスト・参考書等					
⑤成績評価方法	企業からの評価書、受講生からの報告書・日誌から判断する。				
⑥特記事項	博士前期課程の間に1回の履修が可能である。				

No. 都シス25

科目名		授業番号	棟・室番号	開講時期	
都市自然環境論特論		S249	9-229	前期	
単位数	2	担当教員	市古 太郎、金子 忠一*	曜日・時限	集中
備考					
①授業方針・テーマ	都市とランドスケープ				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	都市の環境形成について自然環境あるいはランドスケープの観点からアプローチすることにより、都市環境の計画において自然、緑地、公園、景観、そしてランドスケープがどのように位置づけられるべきか、あるいは都市化の進展の中で如何に対応すべきかの理解を促す。				
③授業計画・内容	講義は3部構成とし、第一部は歴史的系譜を中心とした原論、第二部は都市計画の仕組みに関する理解を促す制度論、第三部はアメニティ都市計画の実際を紹介する計画論とする。これらの講義をふまえて、都市における自然論、緑地論、公園論などを理解するとともに、最後にスタディツアーを行い都市環境計画の実際についても理解する。なお、詳細な授業の進行については開講時に説明する。				
④テキスト・参考書等	授業において紹介する。				
⑤成績評価方法	レポート等によって総合的に評価する。				
⑥特記事項	東京農業大学地域環境科学部都市緑地計画学研究室				

No. 都シス26

科目名		授業番号	棟・室番号	開講時期	
都市自治行政論特論		S145	9-229	前期	
単位数	2	担当教員	前田 成東*、長野 基	曜日・時限	集中
備考					
①授業方針・テーマ	公共サービスの民間化				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	都市に生活する住民のニーズの多様化と行財政改革の要請に対応した都市経営の現代的展開を考察する。				
③授業計画・内容	公共サービスの「民間化」に焦点を合わせ、その理論的背景を検討するとともに、日本における近年の動向としてのPFI、指定管理者、独立行政法人などの諸制度を具体的な事例とともに検討していく。これらの考察を通じて、既存の行政組織の編制、組織運営の手法、公務員制度などへの影響についても議論し、「民間化」の課題を抽出する。				
④テキスト・参考書等	授業において紹介する。				
⑤成績評価方法	レポート等によって総合的に評価する。				
⑥特記事項	授業終了時				

No. 都シス27

科目名		授業番号	棟・室番号	開講時期	
都市コミュニティ論特論		S033	9-229	後期	
単位数	2	担当教員	原田 謙*、山本 薫子	曜日・時限	金・2
備考					
①授業方針・テーマ	この授業は、都市コミュニティをとらえる理論をふまえた上で、実証研究を進めるのに必要な方法を学び、今日のコミュニティ研究の現状と課題を把握することを目的とする。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	現代都市におけるコミュニティをとらえるのに必要な理論的・方法的な知識を修得する。コミュニティに対する社会的なアプローチを理解し、受講者各自の研究（とくに特定の地域を対象とした実証研究）に、修得した方法の適用を目指す。				
③授業計画・内容	<p>授業は、受講者各自の研究テーマを把握したうえで、講義および指定文献の輪読（プレゼンテーション）を中心に進めていく。必要に応じて、地域社会調査データの分析（実習）も取り入れる。具体的な授業内容は、以下の項目を軸に展開する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 「実体としてのコミュニティ（地域社会）」と「理念としてのコミュニティ」というコミュニティ概念を理解する。 2) 東京大都市圏における郊外化・再都市化にともなうコミュニティの歴史の変容を検討する。 3) コミュニティをとらえる社会地区分析やネットワーク分析の方法を修得する。 4) ソーシャル・ネットワーク論やソーシャル・キャピタル論などの今日的なコミュニティ論の展開を把握する。 5) 地域社会調査データ分析の実例を学び、各自の研究テーマへの応用を目指す。 				
④テキスト・参考書等	<p>輪読で用いる文献等は、適宜指示する。主要な参考文献は以下の通り。</p> <p>森岡清志編（2012）『都市社会学セレクションⅡ 都市空間と都市コミュニティ』日本評論社 浅川達人・玉野和志（2010）『現代都市とコミュニティ』放送大学教育振興会 松本康編（2004）『東京で暮らす——都市社会構造と社会意識』東京都立大学出版会</p>				
⑤成績評価方法	授業内のプレゼンテーション(50%) および最終レポート(50%) に基づいて評価する。				
⑥特記事項	基礎的な事項について、参考書等を用いて事前に学習しておくこと。				

No. 都ス28

科目名		授業番号	棟・室番号	開講時期	
都市空間論特論		S222	9-229	前期	
単位数	2	担当教員	市古 太郎、連 健夫*、 佐藤 俊一*	曜日・時限	集中
備考					
①授業方針・テーマ	<p>授業は大きく2部構成とする。</p> <p>第1に東日本大震災被災地であるいわき市豊間地区あるいは石巻市水産エリアをモデルとして、日本の都市計画制度が復興まちづくりにおいてどのように機能しているかを検証することで、都市計画制度の全体像の理解と、その問題点、課題を検討してみることにする。その課題を踏まえ、地域主体、住民主体でまちづくりを進めるための様々な手法についての理解を深め、それをどのように活用していくかについて、授業では、単に講義を聴くだけではなく、意見交換を通して、また図面での作業を通して、自らまちづくりの実践的訓練を行うこととする。</p> <p>第2に街づくりにおける市民参加や建築設計における利用者参加は、質の高い街や建築をつくる上で大切な視点である。これらが実際にどのように行われているか、専門家がどのように関わっているのか、今後の課題を含め分かりやすく解説する。授業は講義と共にディスカッションを行い、参加のデザインの意味合いを深める形式とする。建設現場か完工事例の見学会を行い、グループ発表にて見学会の感想を含めて発表し講評を行う。</p>				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>A) 都市計画制度全体の応用方法を理解し</p> <p>B) 地域主体の住宅地、商業施設等の整備手法を習得し</p> <p>C) 地域主体、住民主体でまちづくりを進めるための参加の手法を実践してみることで、まちづくりのスキル向上を図る</p> <p>D) 街づくりや建築設計における参加のデザインの意味合いを理解する。それらの実状と課題を理解する中で質の高い街、建築とは何か等、問題意識を持つ。</p>				
③授業計画・内容	<p>(1) 東日本大震災の復興事業の仕組みを理解し、復興事業の問題点、課題を考える。それは日本の都市計画制度の全体像と問題点ともつながっている。</p> <p>(2) 地域地区（土地利用）、土地区画整理などの都市計画手法を豊間地区をモデルとして図面上の作業を通して実践し理解する。</p> <p>(3) いわき市豊間地区（区画整理55ha）の現地見学を行い、都市計画制度、まちづくり手法及び復興事業の理解を深める。</p> <p>(4) 住民主体のまちづくり手法としてのワークショップについて、豊間で行われた3年間の数多くの取り組みの学習を通して理解を深め、まちづくりへの応用を学ぶ。</p> <p>(5) 豊間をモデルに地域主体、住民主体のまちづくり提案を作成する（現地提案会の場合を提供します）</p> <p>(6) 街づくりにおける参加のデザイン</p> <p>(7) 建築設計における参加のデザイン</p> <p>(8) 現場見学会</p> <p>(9) グループ発表と講評</p>				
④テキスト・参考書等	<p>「心と対話する建築・家」連健夫著（技報堂出版）</p> <p>また上記以外にも、【授業方針・テーマ】に記載した扱うテーマに関連した本を読むことが望ましい。</p>				
⑤成績評価方法	<p>授業中の発言等（50%）</p> <p>作成レポートと発表（50%）</p>				
⑥特記事項	<p>非常勤なので、授業の後の時間とします。</p>				

科目名		授業番号	棟・室番号	開講時期	
都市住居論特論		S219		前期	
単位数	2	担当教員	橘田 洋子*	曜日・時限	水・4-5
備考					
①授業方針・テーマ	都市空間において豊かな居住環境を持続的に維持向上させてゆくために、いくつかのケーススタディをもとに、歴史的経緯・海外比較を行いながら、その居住環境が抱える実態を把握、これからの「都市にすまう」ことを考察する。 講義を中心にするが、時にグループワークも実施。実際の住宅の見学会も行う予定である。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	都市における居住の環境・役割を把握・評価し、住空間や住まい方に対する考察能力を身につける。				
③授業計画・内容	第1回 : ガイダンス(授業の目的と進め方の説明)・居住歴を考える。 第2回・第3回 : 居住歴から見る住まい方考察(レポート提出・発表) 第4回・第5回 : 都市における集合住宅を考える1 ～日本における流れ・海外比較 第6回・第7回 : 都市における集合住宅を考える2 ～デザイナーズ・ビンテージ・超高層 第8回・第9回 : 都市における集合住宅を考える3(レポート提出) ～フィールドワーク 第10回・第11回 : 都市における戸建て住宅を考える1 ～日本における流れ・海外比較 第12回・第13回 : 都市における戸建て住宅を考える2 ～住み継ぎ・シェア・所有 第14回・第15回 : 「都市に住まう」まとめ(レポート提出・発表)				
④テキスト・参考書等	適宜プリントを配布。参考書は適宜紹介する。				
⑤成績評価方法	レポート3回(各10%ずつの30%)、発表2回(各10%ずつの20%)、出席&授業態度(50%)とする。				
⑥特記事項	・授業は、水曜4-5限の2限続きで行う予定である。 日程はおよそ隔週とし、第1回に詳細のスケジュールを提示する。 ・オフィスアワーは、なし。 ・フィールドワーク・見学会を授業内で行う。その際の交通費・入場券などは、各自負担とする。				

No. 都ス30

科目名		授業番号	棟・室番号	開講時期	
都市システム科学特論Ⅱ		S318		前期	
単位数	2	担当教員	星野 泉*、長野 基	曜日・時限	集中
備考					
①授業方針・テーマ	自治体財政、とくに都市財政の現状と問題点について国際比較及び日本の制度研究の観点から議論を進める。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	国の財政と自治体の財政はどう関わるのか、都市部と農村部の財政はどう違うのか、海外の自治体・財政はどうなっているのかについての知識の習得、及び問題点、改革への処方箋について議論できるようにすることを目指す。				
③授業計画・内容	自治体財政のことを地方財政と呼ぶが、この場合の「地方」とは、農村部のことを意味するわけではない。東京特別区や多摩地域自治体、東京都、及びその他の都市部自治体をも含んだ概念であり、今日、財政・人口規模的にはその部分が圧倒的に大きい。また、地方自治体は、税制、財政調整、公債などで国との財政関係を強くもつ一方、公共サービスの供給及び地方税の課税主体として住民との財政関係をもつ。本特論では、こうした二面性をおもに制度、国際比較の観点からみていく。また、税負担は生活や文化との関わりも大きいことから海外のワーク・ライフ・バランスにも時間を割く予定である。 1 公共部門と民間部門、財政と文化・生活、財政の国際比較、スウェーデンの生活と財政、イギリスの地方財政、国民経済と地方財政 2 日本の地方財政概要、日本の地方財源、法定外税・環境税、地方交付税と地域格差、国庫支出金と事業、地方債、経費の分類、財政分析の手法 3 少子高齢化と地方財政、地方分権改革の動向、都道府県財政、大都市財政（政令指定都市と東京特別区）、都市財政、小規模町村財政				
④テキスト・参考書等	テキスト 星野・兼村『すぐわかる自治体財政』（イマジジン出版）、拙著『スウェーデン高い税金と豊かな生活』（イマジジン出版）				
⑤成績評価方法	出席、議論への参加、レポートによる。				
⑥特記事項					

No. 都シ31

科目名		授業番号	棟・室番号	開講時期	
建築設計実務インターンシップⅠ		S446		前期	
単位数	6	担当教員	市古 太郎、全教員	曜日・時限	集中
備考					
①授業方針・テーマ	意匠設計を専門とする実務家を育成することを目的として、建築実務に精通した各実務指導教員が実際の建築設計、工事監理に即した教育を行う。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	講義・演習等で学んだ内容を活かして、実際の建築士事務所等で実務を体験しながら、意匠設計業務に必要な知識や技術、職業倫理等を身につける。				
③授業計画・内容	1年次の夏期休業期間を利用して、30日程度（240時間程度）の期間、建築士事務所に出向き、設計図書（実施図面等）の作成等の建築設計の補助業務を行う。また、事前ガイダンス・成果報告会を実施する。実習先は、一級建築士事務所とし、実務指導は、建築意匠設計の実務経験のある一級建築士で、本大学院が指導者としてふさわしいと認めた者とする。具体的な内容は、主に基本設計図面の作成、模型の作成を中心に実習を行う。				
④テキスト・参考書等	インターンシップ先で指定する参考書・資料を用いる。				
⑤成績評価方法	インターンシップ先からの報告書、受講生からの業務日誌・報告書等から総合的に判断する。				
⑥特記事項	本講義は、都市システム科学域に所属する学生のみが対象となる。また、本講義は都市システム科学域の修了要件単位数に加算されない。 ★履修登録にあたっては、指導教員からの許可を必要とするものとする（許可なく履修登録をおこなっても無効となる）。				

No. 都シ32

科目名		授業番号	棟・室番号	開講時期	
建築設計実務インターンシップⅡ		S447		後期	
単位数	4	担当教員	市古 太郎、全教員	曜日・時限	集中
備考					
①授業方針・テーマ	意匠設計を専門とする実務家を育成することを目的として、建築実務に精通した各実務指導教員が実際の建築設計、工事監理に即した教育を行う。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	講義・演習等で学んだ内容を活かして、実際の建築士事務所等で実務を体験しながら、意匠設計業務に必要な知識や技術、職業倫理等を身につける。				
③授業計画・内容	1年次の冬期休業期間等を利用して、20日程度（160時間程度）の期間、建築士事務所に出向き、設計図書（実施図面等）の作成等の建築設計の補助業務を行う。また、事前ガイダンス・成果報告会を実施する。実習先は、一級建築士事務所とし、実務指導は、建築意匠設計の実務経験のある一級建築士で、本大学院が指導者としてふさわしいと認めた者とする。具体的な内容は、主に実施詳細図面の作成を中心に実習を行う。				
④テキスト・参考書等	インターンシップ先で指定する参考書・資料を用いる。				
⑤成績評価方法	インターンシップ先からの報告書、受講生からの業務日誌・報告書等から総合的に判断する。				
⑥特記事項	本講義は、都市システム科学域に所属する学生のみが対象となる。また、本講義は都市システム科学域の修了要件単位数に加算されない。 ★履修登録にあたっては、指導教員からの許可を必要とするものとする（許可なく履修登録をおこなっても無効となる） 8月下旬までに申し出ること				

No. 都ス33

科目名		授業番号	棟・室番号	開講時期	
建築設計実務インターンシップⅢ		S448		前期	
単位数	6	担当教員	市古 太郎、全教員	曜日・時限	集中
備考					
①授業方針・テーマ	意匠設計を専門とする実務家を育成することを目的として、建築実務に精通した各実務指導教員が実際の建築設計、工事監理に即した教育を行う。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	講義・演習等で学んだ内容を活かして、実際の建築士事務所等で実務を体験しながら、意匠設計業務に必要な知識や技術、職業倫理等を身につける。具体的な内容は、主に実施詳細図面の作成、クライアントとの打ち合わせ、工事監理といった現場での実習を行う。				
③授業計画・内容	2年次の夏期休業期間を利用して、30日程度（240時間程度）の期間、建築士事務所に出向き、設計図書（実施図面等）の作成等の建築設計の補助業務を行う。また、事前ガイダンス・成果報告会を実施する。実習先は、一級建築士事務所とし、実務指導は、建築意匠設計の実務経験のある一級建築士で、本大学院が指導者としてふさわしいと認めた者とする。具体的な内容は、主に工事監理の補助を中心に実習を行う。				
④テキスト・参考書等	インターンシップ先で指定する参考書・資料を用いる。				
⑤成績評価方法	インターンシップ先からの報告書、受講生からの業務日誌・報告書等から総合的に判断する				
⑥特記事項	本講義は、都市システム科学域に所属する学生のみが対象となる。また、本講義は都市システム科学域の修了要件単位数に加算されない。 ★履修登録にあたっては、指導教員からの許可を必要とするものとする（許可なく履修登録をおこなっても無効となる）				

No. 都ス34

科目名		授業番号	棟・室番号	開講時期	
都市建築設計特別セミナー I		S449		後期	
単位数	2	担当教員	市古 太郎、全教員	曜日・時限	集中
備考					
①授業方針・テーマ	高度な建築設計技術（意匠設計）を習得するための設計演習を行う。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	高度な建築設計技術（敷地条件・設計要件を的確に読み込み計画・設計する能力）、プレゼンテーション能力、設計図面作成能力、を修得する。 意匠設計実務、特にインターンシップに必要な建築設計表現の知識や考え方を習得する。				
③授業計画・内容	建築設計技術を習得するための設計演習であり、学生が各自で取り組む自由課題を課題として、出題（第1回）、デザインの検討（第2回～8回）、図面作成（第9回～13回）、プレゼンテーション作成（第14回～15回）を、小規模なスタジオ形式の指導の下で、実際の設計実務同様の形で行う。				
④テキスト・参考書等	開講時に指示する。				
⑤成績評価方法	最終提出物（設計図書、模型、レポート、等）および講評会でのプレゼンテーションの総合評価。				
⑥特記事項	開講時に指示する 本講義は、都市システム科学域に所属する学生のみが対象となる。また、本講義は都市システム科学域の修了要件単位数に加算されない。				

No. 都シス35

科目名		授業番号	棟・室番号	開講時期	
都市建築設計特別セミナー II		S450		前期	
単位数	2	担当教員	市古 太郎、全教員	曜日・時限	集中
備考					
①授業方針・テーマ	各指導教員の専門分野における施設計画・設計に関連する設計演習を行う。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	高度な建築設計技術（敷地条件・設計要件を的確に読み込み計画・設計する能力）、設計課題を自主的に探求する能力、プレゼンテーション能力、設計図面作成能力、を修得する。 意匠設計実務、特にインターンシップに必要な建築設計表現の知識や考え方を習得する。				
③授業計画・内容	高度な建築設計技術を習得するための設計演習であり、学生が設計競技（コンペ）課題を選択し、その課題に対する以下の演習を行う。 出題（第1回）、デザインの検討（第2回～8回）、図面作成（第9回～13回）、プレゼンテーション作成（第14回～15回）を、小規模なスタジオ形式の指導の下で、実際の設計実務同様の形で行う。				
④テキスト・参考書等	開講時に指示する。				
⑤成績評価方法	最終提出物（設計図書、模型、レポート、等）および講評会でのプレゼンテーションの総合評価。				
⑥特記事項	開講時に指示する。 本講義は、都市システム科学域に所属する学生のみが対象となる。また、本講義は都市システム科学域の修了要件単位数に加算されない。				

No. 都シス36

科目名		授業番号	棟・室番号	開講時期	
都市建築設計特別セミナーⅢ		S451		後期	
単位数	2	担当教員	市古 太郎、全教員	曜日・時限	集中
備考					
①授業方針・テーマ	各指導教員の専門分野における施設計画・設計に関連する設計演習を行う。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	高度な建築設計技術（敷地条件・設計要件を的確に読み込み計画・設計する能力）、設計課題を自主的に探求する能力、プレゼンテーション能力、設計図面作成能力、を修得する。 意匠設計実務、特にインターンシップに必要な建築設計表現の知識や考え方を習得する。				
③授業計画・内容	より高度な建築設計技術を習得するための設計演習であり、指導教員の携わっている現実プロジェクトの課題を選択し、その課題に対する以下の演習を行う。 出題（第1回）、デザインの検討（第2回～8回）、図面作成（第9回～13回）、プレゼンテーション作成（第14回～15回）を、小規模なスタジオ形式の指導の下で、実際の設計実務同様の形で行う。				
④テキスト・参考書等	開講時に指示する。				
⑤成績評価方法	最終提出物（設計図書、模型、レポート、等）および講評会でのプレゼンテーションの総合評価。				
⑥特記事項	開講時に指示する 本講義は、都市システム科学域に所属する学生のみが対象となる。また、本講義は都市システム科学域の修了要件単位数に加算されない。				

No. 都シス37

科目名		授業番号	棟・室番号	開講時期	
参加型デザイン実習		S655		前期	
単位数	4	担当教員	饗庭 伸	曜日・時限	火・4,火・5
備考					
①授業方針・テーマ	政策や空間のデザインの質を高めるために、生活者や利用者がそのデザインに参加することがますます重要になっている。専門家にはそれをサポートし、様々な意見を調整してデザインとしてまとめあげる能力が求められる。政策のデザイン、空間のデザインに限らず、様々な専門性を持つ専門家が身につけるべき共通の能力である。この演習では、誰もが使うキャンパスの空間の改善案を考えることを通じて、この「参加のデザイン力」を身につけることを目的とする。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	「参加のデザイン力」を修得する。				
③授業計画・内容	1) ガイダンス 2) 場所の使われかたの調査 3) 心地よい場所、美しい場所についてのフィールドワーク 4) どういう場所が必要かについてのパターンランゲージの作成 5) 実寸デザインワークショップ 6) プロトタイプングと実証実験 7) 実験結果のまとめ				
④テキスト・参考書等	指定しない				
⑤成績評価方法	出席状況、および課題への取り組み状況で評価する。				
⑥特記事項	・ 広く全学的に履修することが出来る。20名を上限として開講する。いわゆる文系、理系に限定されず履修出来る実習である。 ・ 4月にガイダンスを行うので参加希望者は必ず出席し、受講希望者は担当教員に直接申し込むこと。(Web登録はできない)				

No. 都シス38

科目名		授業番号	棟・室番号	開講時期	
都市空間プランニング実習		S656		後期	
単位数	4	担当教員	饗庭 伸	曜日・時限	木・4,木・5
備考					
①授業方針・テーマ	ニュータウンの設計技術は、直接的にはもう日本国内ではニーズがないが、まっさらの土地に、理論と構想力を持って設計をする力は普遍的に必要な力である。また、活躍の現場を海外に求めるとすれば、ニュータウンの設計、スラムの改善といった技術の活躍の場はまだ存在する。本実習は本学が立地する多摩ニュータウンの住区設計の基本構想や基本計画、実施設計にいたるまでの一連のプロセスを、座学、現地調査、図面のトレース、設計者へのインタビューを通じて体験的に学習していく。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	都市空間をプランニングする力を修得する。				
③授業計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1) 模型による設計～完成プロセスの復元：原地形、竣工直後、主要なオルタナティブ、現在の姿についてそれぞれ模型で再現し、計画の理解を深める。 2) 設計者へのインタビュー、設計者による解説：1) を題材にして設計者のレクチャーを受ける 3) 主要図面のトレース：主要図面（建築図面ではなく基本計画スケールの図面）1～2種をトレースし、そこに込められた設計思想への理解を深める。 4) 現地見学および現在の住民や利用者へのインタビュー：現在の姿、その利用状況について見学やインタビュー調査を行い、魅力、課題、可能性をまとめる。 				
④テキスト・参考書等	開講時に指示する。				
⑤成績評価方法	出席状況、および課題への取り組み状況で評価する。				
⑥特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広く全学的に履修することが出来る。20名を上限として開講する。いわゆる文系、理系に限定されず履修出来る実習である。 ・ 4月・10月にガイダンスを行うので参加希望者は必ず出席し、受講希望者は担当教員に直接申し込むこと。（Web登録はできない） 				

No. 都シス39

科目名		授業番号	棟・室番号	開講時期	
グローバル都市東京研究		S657		通年	
単位数	4	担当教員	饗庭 伸、山本 薫子	曜日・時限	集中
備考					
①授業方針・テーマ	<p>首都大学東京の学生が、アジアの学生に対して、東京のなかでも都市科学の専門の見地からみて最新の論点が出ている都市空間、場所を紹介するスタディツアーを企画し、その準備と実施を通じてグローバル都市・東京の特性に対する理解を深めるとともに、アジア諸国の若い人材から見た、東京のこれからの可能性についての知見を得る。</p> <p>★この授業は国際交流のみを目的としたものではなく、実践的な都市研究、都市科学の授業である。そのため、履修者には事前に都市科学、大都市、東京の都市的特性などに関する一定の予備知識が求められる。また、海外の学生とのディスカッション等は原則的に英語で行われ、英語でのレポート提出も課されているため、一定程度のコミュニケーションおよびレポート執筆のための英語力が求められる。さらに、英語に加えて韓国語、中国語等のできる履修者も歓迎する。</p> <p>★授業の中心はグループワークとなる。グループワークの作業は原則的に授業外に行われるため、通常の授業以上の負担が予想される。また、他の履修者と協力、協調して共同作業を進めることも必要である。こうしたことから、やる気があり、協調性を持ってグループワークを遂行できる学生の積極的な履修を歓迎する。</p>				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>東京のなかでも都市科学の専門の見地からみて最新の論点が出ている都市空間、場所を紹介するスタディツアーを企画することで、その準備と実施を通じてグローバル都市・東京の特性に対する理解を深めることができる。また、アジア諸国の若い人材から見た、東京の特質、とりわけアジアの他都市と比較した論点について学び、都市科学における多角的な視点を修得することができる。</p>				
③授業計画・内容	<p>1) 東京のテーマとスタディツアー企画：3回の演習で企画を行なう。 受講者は東京に関して検討、考察するためのテーマを持ち寄り、それがもっともよく表出しているエリアを選定し、スタディツアーを企画する。3テーマ、3エリアを企画する3つのユニットを設定する。</p> <p>2) 東京のスタディツアーと研究会の開催 11月下旬にアジア各国の大都市（ソウル、台北、上海他）の学生に呼びかけたワークショップを東京で開催し、海外からの参加者を対象に都内でスタディツアーをグループ毎に実施する。さらに、それぞれのスタディツアーでの発見、成果を持ち寄って海外からの参加者とともに討論会、ディスカッションを行う。これに先立って、10月にソウルでのスタディツアー、ワークショップも実施する予定である。</p> <p>3) 成果のとりまとめ 受講者は成果を日本語、英語の報告書としてまとめる。</p> <p>★前期4月に説明会を行う。詳細については掲示する。履修者選抜に際しては、レポートとTOEICスコア（2012年4月以降に受験したもの）の提出を求める。 ★グループ編成は前期5月に実施する。</p>				
④テキスト・参考書等	<p>テキストは用いない。参考書等は必要に応じて紹介する。</p>				
⑤成績評価方法	<p>出席およびグループワークへの参加状況、グループワークの成果、レポート内容によって評価する。</p>				
⑥特記事項	<p>広く全学的に3年生以上の学部生、大学院生が履修することが出来る。15名を上限として開講する。いわゆる文系、理系に限定されず履修できる。</p> <p>教員連絡先（山本）： kahoruko@tmu.ac.jp</p>				

科目名		授業番号	棟・室番号	開講時期	
都市空間計画特殊研究A/B		S531/S532		前期/後期	
単位数	2	担当教員	市古 太郎	曜日・時限	木・2
備考					
①授業方針・テーマ	都市の空間計画に関する計画理論的論考を進めるとともに、東京大都市圏を事例に、まちづくり活動を都市空間計画の実態と課題を講じる。 また、海外の都市の空間計画および都市政策に関する研究論文の講読も進め、受講生が自分の研究テーマを設定し、個別の調査・分析・考察に繋げていくことを目指す。 なお、博士論文作成に向けて、前期課程において作成した各自の修士論文をもとに学会への論文投稿を通して、研究指導を行っていく。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	都市の空間計画論に関する研究能力を高める。				
③授業計画・内容	とくに、都市の安全性評価手法である「地域危険度」調査、「被害想定」調査、および「防災都市づくり・防災まちづくり計画」の体系と実践手法について論考する。 そのうえで、地域安全学会論文集、都市計画学会論文集、建築学会論文集を中心に、論文を分担講読しつつ、都市防災計画論を中心に、近年の研究動向を把握する。				
④テキスト・参考書等	テキストは使わない。必要な文献等は、個別に指示する。				
⑤成績評価方法	成果の発表あるいはレポートによって、評価する。				
⑥特記事項	研究室：9号館5階553室 E-mail: ichiko-taro@tmu.ac.jp メールでアポイントメントをとってください。				

No. 都シス41

科目名		授業番号	棟・室番号	開講時期	
都市空間計画特殊研究C		S533		前期	
単位数	2	担当教員	市古 太郎	曜日・時限	木・2
備考					
①授業方針・テーマ	「都市空間計画論特殊研究A/B」を通して設定された各受講生の研究テーマに応じて、調査及び研究の経過を報告するとともに、関連文献等の講読を通して、受講者全員による総合的な討論を行う。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	都市の空間計画論に関する研究能力を高める。				
③授業計画・内容	各自の研究をもとに関連学会および国際学会での論文発表ができるように内外での関連論文の講読も含めて、論文指導を行う。これらの個別論文指導と同時に、課程博士論文としての構想の確立及びその論文執筆の進捗に応じて、研究指導を進める。				
④テキスト・参考書等	テキストは使わない。必要な文献等は、個別に指示する。				
⑤成績評価方法	成果の発表あるいはレポートによって、評価する。				
⑥特記事項	研究室：9号館5階553室 E-mail: ichiko-taro@tmu.ac.jp メールでアポイントメントをとってください。				

No. 都シス42

科目名		授業番号	棟・室番号	開講時期	
都市空間計画特殊研究D		S534		後期	
単位数	2	担当教員	市古 太郎	曜日・時限	木・2
備考					
①授業方針・テーマ	都市の空間計画に関する計画理論的論考を進めるとともに、東京大都市圏を事例に、まちづくり活動を都市空間計画の実態と課題を講じる。 また、海外の都市の空間計画および都市政策に関する研究論文の講読も進め、受講生が自分の研究テーマを設定し、個別の調査・分析・考察に繋げていくことを目指す。 なお、博士論文作成に向けて、前期課程において作成した各自の修士論文をもとに学会への論文投稿を通して、研究指導を行っていく。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	都市の空間計画論に関する研究能力を高める。				
③授業計画・内容	とくに、都市の安全性評価手法である「地域危険度」調査、「被害想定」調査、および「防災都市づくり・防災まちづくり計画」の体系と実践手法について論考する。 そのうえで、地域安全学会論文集、都市計画学会論文集、建築学会論文集を中心に、論文を分担講読しつつ、都市防災計画論を中心に、近年の研究動向を把握する。				
④テキスト・参考書等	テキストは使わない。必要な文献等は、個別に指示する。				
⑤成績評価方法	成果の発表あるいはレポートによって、評価する。				
⑥特記事項	研究室：9号館5階553室 E-mail: ichiko-taro@tmu.ac.jp メールでアポイントメントをとってください。				

No. 都シス43

科目名		授業番号	棟・室番号	開講時期	
都市空間計画特殊研究E/F		S535/S536		前期/後期	
単位数	2	担当教員	市古 太郎	曜日・時限	木・2
備考					
①授業方針・テーマ	「都市空間計画論特殊研究C/D」を通して設定された各受講生の研究テーマに応じて、調査及び研究の経過を報告するとともに、関連文献等の講読を通して、受講者全員による総合的な討論を行う。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	都市の空間計画論に関する研究能力を高める。				
③授業計画・内容	各自の研究をもとに関連学会および国際学会での論文発表ができるように内外での関連論文の講読も含めて、論文指導を行う。これらの個別論文指導と同時に、課程博士論文としての構想の確立及びその論文執筆の進捗に応じて、研究指導を進める。				
④テキスト・参考書等	テキストは使わない。必要な文献等は、個別に指示する。				
⑤成績評価方法	成果の発表あるいはレポートによって、評価する。				
⑥特記事項	研究室：9号館5階553室 E-mail: ichiko-taro@tmu.ac.jp メールでアポイントメントをとってください。				

No. 都シス44

科目名		授業番号	棟・室番号	開講時期	
都市空間解析特殊研究A/B		S537/S538		前期/後期	
単位数	2	担当教員	玉川 英則	曜日・時限	木・2
備考					
①授業方針・テーマ	都市空間の解析理論に関する文献講読を進めるとともに、大都市の現象を事例に、既存の解析手法の検証と新しい方法論の導出を目指した討論を行う。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	受講生が自分の研究テーマを設定し、個別の調査・分析・考察に繋げていくことを目指す。				
③授業計画・内容	特に、都市計画学会、地理情報システム学会、建築学会、オペレーションズ・リサーチ学会や海外の関連学会等の学術論文集を中心に、論文を分担講読しつつ都市解析論の近年の研究動向を把握する。その中で、受講生が自分の研究テーマを設定し、個別の調査・分析・考察に繋げていくことを目指す。 また、博士前期課程において作成した各自の修士論文の内容の学会への発表を通して、研究指導を行っていく。				
④テキスト・参考書等	テーマに応じて、随時参考文献を紹介する。				
⑤成績評価方法	出席点+研究報告の点数で評価する。				
⑥特記事項					

No. 都シス45

科目名		授業番号	棟・室番号	開講時期	
都市空間解析特殊研究C/D		S539/S540		前期/後期	
単位数	2	担当教員	玉川 英則	曜日・時限	木・2
備考					
①授業方針・テーマ	「都市空間解析論特殊研究A,B」を通して設定された各受講生の研究テーマに応じて、研究の経過を報告させるとともに、受講者全員による総合的な討論を行う。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	受講生が自分の研究テーマに沿って、学会誌等への投稿論文を作成することを目指す。				
③授業計画・内容	各自の研究をもとに関連学会での論文発表ができるように、学術論文の執筆指導を行う。さらに、これらの個別論文指導と同時に、課程博士論文としての構想を確立させ、その進捗状況に応じて研究指導を進める。				
④テキスト・参考書等	テーマに応じて、随時参考文献を紹介する。				
⑤成績評価方法	出席点+研究報告の点数で評価する。				
⑥特記事項					

No. 都シス46

科目名		授業番号	棟・室番号	開講時期	
都市空間解析特殊研究E/F		S541/S542		前期/後期	
単位数	2	担当教員	玉川 英則	曜日・時限	木・2
備考					
①授業方針・テーマ	「都市空間計画論特殊研究A,B」、「同C,D」を通して進めてきた各受講生の研究テーマについて、研究の経過を報告させるとともに、受講者全員による総合的な討論を行い、博士論文の執筆に向けての討議を行う。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	受講生が自分の研究テーマに沿って、学会誌等への論文を作成し、さらに博士学位論文を完成させることを目指す。				
③授業計画・内容	最終的には、各自の研究成果を関連学会等で発表してきた内容をもとに、体系化された1つの課程博士論文をとりまとめることになるが、そのための具体的な指導を行う。				
④テキスト・参考書等	テーマに応じて、随時参考文献を紹介する。				
⑤成績評価方法	出席点+研究報告の点数で評価する。				
⑥特記事項					

No. 都シス47

科目名		授業番号	棟・室番号	開講時期	
都市制度論特殊研究A/B		S549/S550		前期/後期	
単位数	2	担当教員	長野 基	曜日・時限	木・2
備考					
①授業方針・テーマ	都市ガバナンスの理論的探究				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	政治学・公共政策学におけるガバナンス理論研究を踏まえ、わが国の都市ガバナンスの検討を目的とする。併せて、現代の大都市における都市政策上の諸課題について検討を加えることを目的とする。				
③授業計画・内容	内閣府、総務省における各種審議会報告書や地方6団体からの各種報告書などの政策文書、OECD等からの白書、政策文書、そしてPublic Administration Review、Urban Affairs Reviewなどを中心とするとする諸学会の論文誌からの論文を分担講読しつつ、近年の政策動向や理論的展開を把握する。				
④テキスト・参考書等	新川達郎編著（2011）『公的ガバナンスの動態研究』（ミネルヴァ書房） Chhotray&Stoker(2010) Governance Theory and Practice: A Cross Disciplinary Approach, Palgrave Macmillan その他、必要な文献等は、個別に指示する。				
⑤成績評価方法	成果発表及び課題レポート等によって総合的に評価する。				
⑥特記事項	授業終了後を基本としますが、出来る限りメールでアポイントメントを取ってください。 受講希望者は最初の講義にて各自の研究計画（予定）を報告してください。また、内容に応じて近隣自治体等へのヒアリングを行うことがあります。時間の調整に付き、ご協力ください。				

No. 都シス48

科目名		授業番号	棟・室番号	開講時期	
都市制度論特殊研究C/D		S551/S552		前期/後期	
単位数	2	担当教員	長野 基	曜日・時限	木・2
備考					
①授業方針・テーマ	都市ガバナンスの実証的探究				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	政治学・公共政策学におけるガバナンス理論研究を踏まえ、わが国の都市ガバナンスを実証的に研究する能力を養うことを目的とする。併せて、現代の大都市における都市政策上の諸課題についてガバナンス論の観点から検討を加えることを目的とする。				
③授業計画・内容	内閣府、総務省における各種審議会報告書や各地方自治体における各種審議会報告書などの政策文書、OECD等からの白書、政策文書、そしてPublic Administration Review、Urban Affairs Reviewなどを中心とする諸学会の論文誌からの論文を分担講読しつつ、近年の政策動向や研究動向を把握する。				
④テキスト・参考書等	S.Osborne ed. (2010) The New Public Governance, Routledgeほか、必要な文献等は、個別に指示する。				
⑤成績評価方法	成果発表及び課題レポート等によって総合的に評価する。				
⑥特記事項	授業終了後を基本としますが、出来る限りメールでアポイントメントを取ってください。 受講希望者は最初の講義にて各自の研究計画（予定）を報告してください。また、内容に応じて近隣自治体等へのヒアリングを行うことがあります。時間の調整に付き、ご協力ください。				

No. 都シス49

科目名		授業番号	棟・室番号	開講時期	
都市制度論特殊研究E/F		S553/S554		前期/後期	
単位数	2	担当教員	長野 基	曜日・時限	木・2
備考					
①授業方針・テーマ	「都市制度論特殊研究A/B」および「同C/D」を通して設定された各受講生の研究テーマに応じて、調査研究の経過を報告するとともに、関連文献等の講読を通して、受講者全員による総合的な討論を行う。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	都市ガバナンスに関する総合的な研究能力を高める。				
③授業計画・内容	各自の研究をもとに関連学会での論文発表ができるように国内外での関連論文の講読も含めて、論文指導を行う。これらの個別論文指導と同時に、課程博士論文としての構想の確立及びその論文執筆の進捗に応じて、研究指導を進める。				
④テキスト・参考書等	必要な文献等は、個別に指示する。				
⑤成績評価方法	成果発表及び課題レポート等によって総合的に評価する。				
⑥特記事項	授業終了後を基本としますが、出来る限りメールでアポイントメントを取ってください。 受講希望者は最初の講義にて各自の研究計画（予定）を報告してください。また、内容に応じて近隣自治体等へのヒアリングを行うことがあります。時間の調整に付き、ご協力ください。				

No. 都シス50

科目名		授業番号	棟・室番号	開講時期	
都市環境経済論特殊研究A/B		S561/S562		前期/後期	
単位数	2	担当教員	伊藤 史子	曜日・時限	水・1
備考					
①授業方針・テーマ	<p>都市・地域・環境・社会資本整備の経済評価に関する理論や手法について、論文を広く購読することにより近年の研究動向を論ずる。住環境解析、都市・地域解析、住宅需要構造分析に関する理論や手法についても扱う予定である。また実都市における公共プロジェクト等を事例として評価に基づく意思決定のあり方を論ずる。これらを演習・討論形式で進めることにより、受講生の研究テーマ設定をめざす。</p> <p>在室時はほぼ対応できますのでメールでアポを取ってください。</p>				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標					
③授業計画・内容					
④テキスト・参考書等					
⑤成績評価方法					
⑥特記事項					

No. 都シス51

科目名		授業番号	棟・室番号	開講時期	
都市環境経済論特殊研究C/D		S563/S564		前期/後期	
単位数	2	担当教員	伊藤 史子	曜日・時限	水・1
備考					
①授業方針・テーマ	<p>都市環境経済論特殊研究 I で扱った都市・地域・環境・社会資本整備の経済評価、住環境解析、都市・地域解析、住宅需要構造分析などに関して受講生が設定したテーマに応じて博士課程研究を展開していく。全体での演習・討論形式の指導と、研究の途中成果を諸学会に発表するための論文作成指導を並行して進める。</p> <p>在室時はほぼ対応できますのでメールでアポを取ってください。</p>				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標					
③授業計画・内容					
④テキスト・参考書等					
⑤成績評価方法					
⑥特記事項					

No. 都シス52

科目名		授業番号	棟・室番号	開講時期	
都市環境経済論特殊研究E/F		S565/S566		前期/後期	
単位数	2	担当教員	伊藤 史子	曜日・時限	水・1
備考					
①授業方針・テーマ	<p>都市環境経済論特殊研究Ⅱまでに進められた都市・地域・環境・社会資本整備の経済評価、住環境解析、都市・地域解析、住宅需要構造分析などに関する受講生のテーマについて、博士論文の完成をめざす。審査付学術論文の作成、成果の博士論文へのとりまとめについて、進捗状況に応じて研究の支援指導を進める。</p> <p>在室時はほぼ対応できますのでメールでアポを取ってください。</p>				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標					
③授業計画・内容					
④テキスト・参考書等					
⑤成績評価方法					
⑥特記事項					

No. 都シ53

科目名		授業番号	棟・室番号	開講時期	
まちづくり計画特殊研究A/B		S567/S568		前期/後期	
単位数	2	担当教員	饗庭 伸	曜日・時限	木・2
備考					
①授業方針・テーマ	<p>まちづくりや関連する制度について計画理論的論考を進めるとともに、大都市のまちづくりのケーススタディを進める。特に、ワークショップやビジュアルライゼーションの手法の開発実践を進める</p> <p>博士論文のテーマに関連した専門深化した知識だけでなく、まちづくりの現場を見ることで専門家に必須なジェネラリストとしての知識や手法を習得する。</p> <p>まちづくりや関連する制度について計画理論的論考を進めるとともに、大都市のまちづくりのケーススタディを進める。とくに、地域協働と討議型市民参加について理論的考察を深め、ワークショップやビジュアルライゼーションの手法の開発や実践を進める。</p> <p>そのうえで、都市計画学会論文集、建築学会論文集、都市住宅学会論文集などを中心に、論文を分担講読しつつ、近年の研究動向を把握する。また、海外の最先端の計画理論に関する研究論文の講読も進め、受講生が自分の研究テーマを設定し、個別の調査・分析・考察に繋げていくことを目指す。</p> <p>なお、博士論文作成に向けて、前期課程において作成した各自の修士論文をもとに学会への論文投稿を通して、研究指導を行っていく。</p>				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標					
③授業計画・内容					
④テキスト・参考書等					
⑤成績評価方法					
⑥特記事項					

No. 都シ54

都市システム

科目名		授業番号	棟・室番号	開講時期	
都市交通システム論特殊研究A/B		S622/S623		前期/後期	
単位数	2	担当教員	小根山 裕之	曜日・時限	木・2
備考					
①授業方針・テーマ	交通工学，都市交通計画等に関する研究を実施するための研究手法及び研究内容に関する具体的・実践的知識の獲得				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	交通工学，都市交通計画等に関する研究を実施するための研究手法及び研究内容に関する具体的・実践的知識の獲得を目指す。				
③授業計画・内容	交通流調査，道路交通制御技術，ITS，都市交通計画，公共交通計画，交通と環境影響，交通安全分析などの各内容について，最新及び既往の重要な論文の調査研究，分析手法など研究手法についての学習及び演習などを行う。具体的内容については，博士論文課題に応じて適宜設定する。				
④テキスト・参考書等	特に定めない。				
⑤成績評価方法	取り組み状況に応じて総合的に判断する。				
⑥特記事項	曜日・時限、実施場所については、指導教員と相談の上決定する。				

No. 都シス55

科目名		授業番号	棟・室番号	開講時期	
都市交通システム論特殊研究C/D		S624/S625		前期/後期	
単位数	2	担当教員	小根山 裕之	曜日・時限	木・2
備考					
①授業方針・テーマ	交通工学，都市交通計画等に関する研究を実施するための研究手法及び研究内容に関する具体的・実践的知識の獲得				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	交通工学，都市交通計画等に関する研究を実施するための研究手法及び研究内容に関する具体的・実践的知識の獲得を目指す。				
③授業計画・内容	交通流調査，道路交通制御技術，ITS，都市交通計画，公共交通計画，交通と環境影響，交通安全分析などの各内容について，最新及び既往の重要な論文の調査研究，分析手法など研究手法についての学習及び演習などを行う。具体的内容については，博士論文課題に応じて適宜設定する。				
④テキスト・参考書等	特に定めない。				
⑤成績評価方法	取り組み状況に応じて総合的に判断する。				
⑥特記事項	曜日・時限、実施場所については、指導教員と相談の上決定する。				

No. 都シス56

科目名		授業番号	棟・室番号	開講時期	
都市交通システム論特殊研究E/F		S626/S627		前期/後期	
単位数	2	担当教員	小根山 裕之	曜日・時限	木・2
備考					
①授業方針・テーマ	交通工学，都市交通計画等に関する研究を実施するための研究手法及び研究内容に関する具体的・実践的知識の獲得				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	交通工学，都市交通計画等に関する研究を実施するための研究手法及び研究内容に関する具体的・実践的知識の獲得を目指す。				
③授業計画・内容	交通流調査，道路交通制御技術，ITS，都市交通計画，公共交通計画，交通と環境影響，交通安全分析などの各内容について，最新及び既往の重要な論文の調査研究，分析手法など研究手法についての学習及び演習などを行う。具体的内容については，博士論文課題に応じて適宜設定する。				
④テキスト・参考書等	特に定めない。				
⑤成績評価方法	取り組み状況に応じて総合的に判断する。				
⑥特記事項	曜日・時限、実施場所については、指導教員と相談の上決定する。				

No. 都シス57

科目名		授業番号	棟・室番号	開講時期	
都市システム科学特別研究A/B		S525/S526		前期/後期	
単位数	2	担当教員	市古 太郎、全教員	曜日・時限	集中
備考					
①授業方針・テーマ	都市システム科学の博士後期課程における研究に関する指導を行う。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	博士後期課程1年次の学生を対象に、各自の博士論文に向けての研究のテーマについて、都市システム科学の観点から研究指導を行うことを目的とする。				
③授業計画・内容	<p>前期（A）は、分野毎、指導教員毎に定常的にセミナーを開催して、研究テーマの選択、研究計画の作成、研究方法および調査設計などの検討、先行研究の調査や関連する専門的・理論的知識の習得、研究の経過発表などを主として進める。また、全教員・全学生の参加による合同セミナーを開催して、博士論文の構想発表を行い、学際的な観点から研究指導を行う。</p> <p>後期（B）は、分野毎、指導教員毎に定常的にセミナーを開催して、研究テーマの選択、研究計画の作成、研究方法および調査設計などの検討、先行研究の調査や関連する専門的・理論的知識の習得、研究の経過発表などを主として進める。</p>				
④テキスト・参考書等	なし				
⑤成績評価方法	セミナーでの発表と出欠等によって総合的に評価する。				
⑥特記事項	個々の研究室におけるセミナー等、指導教員を中心とした不断の指導を受け研鑽を積むことを経て合同セミナーの発表に臨むことが必須である。したがって、それが学生側の問題により十分行われていないと指導教員が判断する場合は、発表を行うことを認めない場合がある。また、発表担当ではないセミナーへの出欠も評価の対象となる。				

No. 都シス58

科目名		授業番号	棟・室番号	開講時期	
都市システム科学特別研究C/D		S527/S528		前期/後期	
単位数	2	担当教員	市古 太郎、全教員	曜日・時限	集中
備考					
①授業方針・テーマ	都市システム科学の博士後期課程における研究に関する指導を行う。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	博士後期課程1年次の学生を対象に、各自の博士論文に向けての研究のテーマについて、都市システム科学の観点から研究指導を行うことを目的とする。				
③授業計画・内容	<p>前期（C）は、分野毎、指導教員毎に定期的にセミナーを開催して、研究の経過発表を主として進める。また、全教員・全学生の参加による合同セミナーを開催して、博士論文の中間発表を行い、学際的な観点から研究指導を行う。</p> <p>後期（D）は、分野毎、指導教員毎に定期的にセミナーを開催して、さらに研究の経過発表を進める。</p>				
④テキスト・参考書等					
⑤成績評価方法	セミナーでの発表と出欠等によって総合的に評価する。				
⑥特記事項	個々の研究室におけるセミナー等、指導教員を中心とした不断の指導を受け研鑽を積むことを経て合同セミナーの発表に臨むことが必須である。したがって、それが学生側の問題により十分行われていないと指導教員が判断する場合は、発表を行うことを認めない場合がある。また、発表担当ではないセミナーへの出欠も評価の対象となる。				

No. 都シ59

科目名		授業番号	棟・室番号	開講時期	
都市システム科学特別研究E/F		S529/S530		前期/後期	
単位数	2	担当教員	市古 太郎、全教員	曜日・時限	集中
備考					
①授業方針・テーマ	都市システム科学の博士後期課程における研究に関する指導を行う。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	博士後期課程1年次の学生を対象に、各自の博士論文に向けての研究のテーマについて、都市システム科学の観点から研究指導を行うことを目的とする。				
③授業計画・内容	<p>前期（E）は、分野毎、指導教員毎に定期的にセミナーを開催して、研究の経過発表を主として進める。また、全教員の参加による合同セミナーを開催して、博士論文の中間発表を行い、学際的な観点から研究指導を行う。</p> <p>後期（F）は、研究の最終的なまとめとして、全教員・全学生の参加による合同セミナーにおいて、博士論文の最終中間発表を行い、学際的な観点から研究指導を行う。</p>				
④テキスト・参考書等					
⑤成績評価方法	セミナーでの発表と出欠等によって総合的に評価する。				
⑥特記事項	個々の研究室におけるセミナー等、指導教員を中心とした不断の指導を受け研鑽を積むことを経て合同セミナーの発表に臨むことが必須である。したがって、それが学生側の問題により十分行われていないと指導教員が判断する場合は、発表を行うことを認めない場合がある。また、発表担当ではないセミナーへの出欠も評価の対象となる。				

No. 都シ60

科目名		授業番号	棟・室番号	開講時期	
都市社会論特殊研究A/B		S591/S592		前期/後期	
単位数	2	担当教員	山本 薫子	曜日・時限	月・5
備考					
①授業方針・テーマ	都市社会学、地域社会学の観点から、都市コミュニティに関する文献講読を進める。また、海外文献についても検討することによって、日本の都市構造の特質について理解を深める。そうした一連の作業は、受講生は自らの研究テーマを設定し、個別の調査・分析を進めていく準備ともなる。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	都市コミュニティに関する研究能力の向上				
③授業計画・内容	受講者が各自の問題関心に沿って、学会報告、論文執筆を行うことを念頭に置いた研究指導を行う。				
④テキスト・参考書等	教科書は用いない。参考書、参考文献等は随時紹介する。				
⑤成績評価方法	研究発表、レポート等によって評価する。				
⑥特記事項	研究室：9号館1階154室 E-mail: kahoruko@tmu.ac.jp メールでアポイントメントをとってください。				

No. 都シス61

科目名		授業番号	棟・室番号	開講時期	
都市社会論特殊研究C/D		S593/S594		前期/後期	
単位数	2	担当教員	山本 薫子	曜日・時限	月・5
備考					
①授業方針・テーマ	各受講者は「都市社会論特殊研究I」を通じて設定された研究テーマに応じて、調査・研究の経過報告を行う。さらに、全受講者が参加する形態での総合的討論を実施する。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	授業での報告、発表を通じて、受講生は自分が設定した研究テーマについてさらにデータ蒐集の精度を高め、より深い分析が可能になる。				
③授業計画・内容	各自が設定した研究テーマに従って関連学会等での学会報告および投稿論文の執筆が可能となるよう、研究指導を行う。同時に、博士論文執筆を進めていく上での指導も行う。				
④テキスト・参考書等	教科書は用いない。参考書、参考文献等は随時紹介する。				
⑤成績評価方法	研究発表、レポート等によって評価する。				
⑥特記事項	研究室：9号館1階154室 E-mail: kahoruko@tmu.ac.jp メールでアポイントメントをとってください。				

No. 都シス62

科目名		授業番号	棟・室番号	開講時期	
都市社会論特殊研究E/F		S595/S596		前期/後期	
単位数	2	担当教員	山本 薫子	曜日・時限	月・5
備考					
①授業方針・テーマ	各受講者は「都市社会論特殊研究Ⅰ・Ⅱ」を通じて設定された研究テーマに応じて、調査・研究の経過報告を行う。さらに、全受講者が参加する形態での総合的討論を実施する。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	授業での報告、発表を通じて、受講生は自分が設定した研究テーマについてさらにデータ蒐集の精度を高め、より深い分析・考察が可能になる。				
③授業計画・内容	各自が設定した研究テーマに従って関連学会等での学会報告および投稿論文の執筆が可能となるよう、研究指導を行う。同時に、博士論文の完成に向けた指導を行う。				
④テキスト・参考書等	教科書は用いない。参考書、参考文献等は随時紹介する。				
⑤成績評価方法	研究発表、レポート等によって評価する。				
⑥特記事項	研究室：9号館1階154室 E-mail: kahoruko@tmu.ac.jp メールでアポイントメントをとってください。				

No. 都シス63